

公民館だより

58.3
由良地区
公民館

明るく正しい選挙を

館長 藤本 舟雄

今年には府会議員と参議院議員の選挙の年です。私たちをとりまくあらゆる社会経済現象は、どんなことでも政治とかわりをもっており、政治と私たちの生活は切っても切り離せない関係にあります。

国の政治に国民が参加して国民の意志によって、政治が行われることを民主主義といえます。これは主権が国民にあるということである。この政治を決定する最高の権力が国民にあるということなのです。わが国の憲法ではこの民主主義の原則である国民主権を明確に定めておられます。

私たちは生活を向上させる政治を望んでいますが、その政治が憲法の保障する国民主権の原理に基づいて正当に選挙された代表者によって行われるものです。即ち民主政治は国民自らの政治であり、その具体的に実現する手段が選挙です。

選挙が明るくきれいに行われ、公平な政治と豊かな明るい暮らしが守られることが我々の大きな願いです。そのため私たち主権者は豊かな政治意識と高い選挙道義をもって、選挙には安心して政治を托することのできる代表者を選ぶ必要があります。

投票率が低いと有権者の意見が実現されませんので選挙には棄権のないようにしたいものです。選挙は候補者に一票を投ずるのみならず、人の選択を通して政策の選択もしているのです。例え落選しても死票にはならない筈です。反対意見も今後の政治に考慮することになると思います。

又有権者は人から頼まれて選挙するのでなく、自主的に投票所に行き、自分の意志と判断で、自分の信ずる人に一票を投じてほしいと思います。



報 告 主 筆 平 間 克 己

(一) 第三回宮津市公民館対抗囲碁大会

日時 十一月二十一日(日) 午前九時

会場 寺津地区公民館

由良地区公民館より、由良囲碁同好会の会員五名が参加、団体戦に於いて去年に引き続き優勝、二連覇なる。

(二) 文化祭作品展

日時 十一月二十一日(日) 午前十時より

午後三時まで

会場 由良幼稚園

今年も優秀作品が多数出品された。

「書道展」由良公民館も毎年寺津公民館より書道展覧用枠を借りていたが今年から新調し小学生を始め一般の方の能筆を展覧した。

「生花展」小室桂泉先生やお弟子さん、それに個人的な出品もあり、清蓮な花が会場を明るくし、「写真展」では由良カメラクラブの皆さんが積極的に参加して頂き、会場は一段と賑わしく、出品された写真も迫力のある逸品ばかりで、宮津の或るプロ写真家もこの写真展を觀賞し、「私達プロも」とと勉強しなくては恥かしい」とと優秀さを立証した。更に中年の奥さんグループが、趣味の俳画を十数点も出品されるなど盛り上りを見ました。それに毎年ながら小室桂泉先生には茶席を設けて頂き、観覽された方などに自費で茶の接待をし

て頂く等、皆さんに感謝されています。

又この事により一段と文化祭作品展が格高く意義深い行事にして頂いた事になります。

(三) 新春囲碁大会

日時 一月二日 午前九時より

会場 由良老人憩の家

由良公民館後援の新春囲碁大会は由良の愛棋家が集り、終日熱戦を展開するのです。歴史も古く又誰でも希望者は参加出来ます。

由良囲碁同好会もこの大会から発足され、その棋力は、過去の公民館対抗、農協対抗で連続優勝の成果を挙げています。

(四) 成人式

日時 一月十五日 午前十時

会場 宮津会館

成人式に出席された宮津市成人数

二百五十二人(男八十五人、女百六十七人)

成人式に出席された由良成人数

十六人(男九人、女七人)

成人式に出席された方の紹介(敬称略)

脇 石田孝司 磯田陽子 奥野恭子

北村敬昭 中井洋子 矢野専記

宮本 上羽貴志 熊田智子 小西恵子

平野伸也 森本尚子
大森賢司 中西一孝 藤原義之

石浜

榎田康子

(五) 第二回四部対抗囲碁大会

日時 二月六日(日) 午前九時

会場 由良の里センター

伝統のある由良囲碁界の発展のため、由良公民館主催で第二回を開催した。

各部五人の棋士による団体戦である。

優勝 第二部(二年連勝)

(六) 第三回四部対抗男女バレーボール大会

日時 二月二十日(日)

会場 由良小学校体育館

この大会はみんなの期待の中で行われた。

今年も実力伯仲し、然も笑いと声援が交錯する明るくムードの中で熱戦が展開され、予定通り終了した。

然しながら最後の成績発表の段階で、決断に

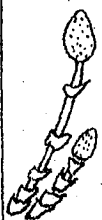
時間が伸びました事をお詫びします。

優勝 男子 第三部(二年連勝)

女子 第三部

女子 第三部

女子 第三部



二十歳としての出発点

矢野善記

二十歳になった私は、現在すでに職についています。今私は、自立という事の大切さを感じています。それは、何も経済面だけでなく精神面においても言えることで両面をそなえた上での一人で生きてゆくことのできる力というものをまず身につけなければならぬと思うのです。そのためには、自己をよく知っていること、そして社会に順応する自己、社会を批判できる自己というものを形成しなければならぬと思います。ただ、社会の大きな波や時間に流されて人生を送るような活動はしたくないのです。常に思考という活動をフル回転させていなければならぬと思います。自己を開発するということによつて、回りの人々が見えてくるように思われます。そして、それは同時に私が社会の中の一員であることの認識につながるでしょう。私は、二十歳という今を、今動き始めたといつてもいい私の心の活動の出発点としたいと思います。

二十歳になって思う

榎田康子

人生の中のいくつかの区切り、その中の一つが二十歳の成人。これまでの二十年間にも小学校、中学校、高校の入学、卒業、入社と区切りがありました。成人とは、随分意味合も違います。社会人となって、仕事に対しての責任を、そして今年は二十歳となつての責任が加わり、一人前として扱われるようになりまし。

信号機のように赤が青になつて、今日と明日の自分が変わることはないと思ひます。

でも、私は今日よりも明日は少しでも前進しているように、これからの人生を過ごしたいと思ひます。

いつも一つの区切りごとに、このようにしたいとか、この部分を直したいとか考へてはいるものの、日々過ぎるうちに決意が薄くやの中に隠れて、ふと気がつく、とんでもない所にいたりする自分に呆れる事も、しばしばです。だから今度成人となつて、とあらためて聞かれても、具体的に話せないのが今の現状です。

人それぞれ、環境も違い、考へ方も変わっています。しかし個人が自分の責任を負い、この社会はまた変わるかもしれないけれど、一人だから何も出来ないのではなく自分から何もしないのでは結果も違います。同じ考へた人が数人集まれば、一人ではどうしようもなかった事も実現可能です。たとえば、お祭りの御輿をかつぐ人が少ないほど、一人にかかる負担は大きくなります。ここで一人が力を抜いたら、残りの人は一人分以上の負担を受けます。未成年なら力を抜いた分、親が負担してくれようでしょう。しかし、二十歳の今、誰も御輿をかつぐのを代わってくれません。

これから先、一個人の責任をもち、みんなと共に大きな御輿をかつぎたいと思ひます。

囲碁のすすめ

由良囲碁同好会の一頁

由良公民館主催の第二回四部対抗囲碁大会三月六日由良の里センターは、各地区選出の強豪が熱戦の末昨年同様宮本区が優勝しまし

た。

由良地区に於ける囲碁愛好者は余り多くはありませんが、今は七き方々を始め立派な先輩が居られ、その方々の薫陶をよろしきを得て、由良囲碁同好会は、当地区以外の公的の大会へ宮津市公民館対抗戦、宮津市農協対抗戦等)には、毎年優勝、準優勝等入賞せぬ時は無い程立派な成績を挙げ、由良地区以外の囲碁愛好者の畏怖の的となっております。この事實は由良囲碁同好会員が自己の樂しみもさることながら、由良地区の名譽にかけその日頃の研鑽努力の賜物と存じます。然し残念なのは、現在の同好会員が二十名足らずの少数にて、特に若い人が少なくその将来が甚だ淋しい限りであります。そこで由良囲碁同好会といたしましては、これまでもそうでありましたが、今後には於いても老若男女を問わず由良地区囲碁発展の爲にも進んで入会して頂き勉強し、楽しんで下さるよう心よりお待ち致しております。

囲碁は、紀元前数千年もの大昔、すでに支那に於いて考案され一向に衰えることなく、綿々として今日まで至っていると言うことは

如何に立派な娯楽であるかと頷ける次第であります。また、囲碁は「手談」とも言いまし、口の代りに手で話すと言う訳で、口が喋らないのは嚴肅を意味し、嚴肅は無我の境地に入ることで、例え、口下手な人でも悠々と樂しめる訳であります。

尚、囲碁は、①思考力の向上②忍耐力の養成③ストレス(欲求不満)の解消④孤独よりの脱出⑤經費の輕少⑥興味津々等多くの利点あり古来より最も高尚な遊びと言われて参りました。

現在、特に都會の高校、大学の學生間に於いて囲碁が知能の向上その他に大変好結果を齎すのでクラブ活動として盛んであるとのことです。どうか囲碁の良さをご理解頂き楽しんで下さるようおすすぬ致します。

バレエボール大会二連勝に想う

中西

孝

二月二十日昨年とはうって変わった晴天の日曜日、四部対抗バレエボール大会は、終日大

接戦の末、見事我が第三部の二連勝に終った。

他チームの苦返りに対し、我がチームは昨年と同じ類ぶれで、年令も五十才代を念む平均年令四十才代の陣容である。恐らく個々の力量は他部の方が数段上だと思ふ。しかし現実には優勝したのだからいくつかの勝因があった。技術的には、頭抜けた選手がいないう事でお互いに遠慮することなく自分の持場を守り、個人プレーをしなかった。というより技術の持ち合わせが無かったのかも知れない。次にサーフミスが殆んど無く自滅を防いだ事が大きな勝因であろう。又精神的には、全員が真剣にプレーをした事を挙げねばならない。

いくら親善試合であっても勝敗は度外視できない。試合中は真剣にプレーをしてこそ事故防止につながると思うし、得点差は別として観戦者も気持ち良く観られるものである。応援する者、選手が一体となり点差にかかわらず、常に声を出し激励をしつつお互いを引き締めていたのが印象に残った。こうしたチームワークの良さが勝利に結びついたと云っても過言ではあるまい。

今後の大会が益々盛大になる事を祈ります。

四部対抗バレエボール大会に参加して

三部

中西

巴

二月二十日厳しい冷え込みの中、由良小学校で、第三回四部対抗バレエボール大会が開催され、総当りリーグ戦が行われました。

サークルに行っているながら、ねっから上達もしないお前が出るのかと主人にボヤかれ乍ら今年も参加させていただきました。

寒い中応援の方達も多く、常日頃顔をあわせたりしない人達と、勝敗はともあれ、各部共に応援しあい、子供達の大きな声援、自分に気合いをかけてサーフを入れる人、また、ハラハラするようなプレーも見られ、和気藹々の中、楽しい試合であったと思ひます。

選手の方はじめ、地区の皆様のご協力のおかげで、女子も初優勝することができました。

今後、公民館活動のいろんな行事に、役員さんまかせでなく、自分から進んで参加し、互いの心のつながりと、地域ぐるみの和を広げ、由良地区の発展を願う一人でありたいと思ひます。

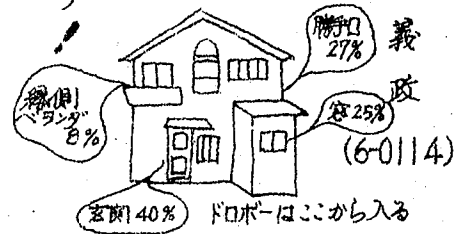


みんなで防犯
明るい町づくり

由良駐在所 宇藤義政

(6-0114)

- あき葉の防止は、鍵かけと声かけが基本。
- 戸締り用心と隣近所の防犯協力を、進めましょう。



- 非行のサインを早く見つけよう
- (一)言葉使いや服装が変る。
- (二)親の知らない物を持っている。
- (三)帰宅時間が不規則になったり、いいわけや、ウソが多くなる。

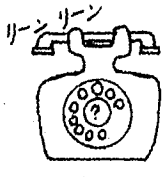
昭和五十八年度交通安全

- (一)思いやり ゆずる心で 防々事故
- (二)確かめて 渡るあなた 子の手本

(三)急いでも、きちんと見ます 右左

○ハイ、駐在所です

最近、宮本のし方に、再三にわたる用件も言わず無言のままの怪電話あり！
たまりかねたしさんが、駐在所に届け出て来ました。
警察では、このような怪電話(いたずら電話)に対し、現在、捜査をしております。
しさんと同じような被害にあっておられる方は、駐在所までお知らせください。



図書館あんない

公民館の図書館は、由良の里センター内の出張所の隣室で、静かに熟読出来る部屋で、趣味の本、実用の本、小説、随筆等ベストセラーを九六〇余冊あり、皆様のご利用をお待ちしています。

- 最近の購入本をご紹介します。
- 1 江戸ものしり話 江戸野次馬クラブ

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------|------|------|----------|-----------|-------|-----------|-----------|------|---------|----------|--------------|------------|--------|--------------|----------------|----------|---------|------------------|--------|--------|
| 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| 峠の群像(上巻) | 大河の一滴 | 隣の女 | 旅路 | 小説紙の消える日 | 人間万華鏡翁が丙午 | 江戸剣花帖 | 北の国から(後編) | 北の国から(前編) | 冬の派閥 | 季節材料料理別 | お菓子手作り事典 | 冠婚葬祭と実用手紙文の本 | 丸山ワクチンは死なず | ボケー一〇番 | 老人の看護をした主婦の話 | 法律相談「あなたのお父さん」 | 田中角栄は死なず | 黙っておれるか | 税金これで安くなる(確定申告編) | 極北を駆ける | 京都雑学事典 |
| 堺屋太一 | 大森 | 向田邦子 | 藤原てい | 森山剛 | 青島幸男 | 邦光史郎 | 倉本聰 | 倉本聰 | 城山三郎 | マダム編集部 | 今田美奈子 | 塩月弥栄子 | 永田孝一 | 早川一光 | 式田和子 | 京都弁護士会 | 蜷川真夫 | 細川隆元 他 | 須川芳夫 | 植村直巳 | 毎日新聞社 |

- | | | | | | |
|------------|--------|-----------|--------------|----------|--------------|
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 窓ぎわのトットちゃん | 恐恐恐怖対談 | 海軍めしたき総決算 | 一九八〇年 アイコ十六才 | しのぶちゃん日記 | 藤原弘達の生きざまと思案 |
| 黒柳徹子 | 吉行淳之介 | 高橋孟 | 堀田あけみ | 平林浩 | 藤原弘達 |
- ①生きる ②遊ぶ ③世に出る
④売れる ⑤翔ける ⑥訣別する
⑦斬る ⑧開く ⑨耐える ⑩吼える
- 以上三十九冊

投稿規定

- ▽紙面のペンネームは可とするも、原稿には必ず住所、氏名を明記すること。
- ▽原稿に関する取捨はすべて編集部に一任のこと。
- ▽投稿は、四百字詰中判(A4)原稿用紙を使用し、楷書のこと。尚、原稿用紙二枚以内とする。
- ▽締切りは、三月、六月、十月のそれぞれ末日とする。
- ▽原稿送付先は、左記おて

宮津市由良 公民館文化部長 坂本 同